

20m080発表記録

学びのための指導・支援のあり方



各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (学びのための指導 授業)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (授業者にあたり、必要なこと)

● 学びにおける水平的な関係と垂直的な関係

→ 垂直的関係 (教員 → 生徒)
and
水平的関係 (生徒 - 生徒)

● 発見や思考を促す発問・板書

→ 知的な興奮を起し、思考を刺激する

■肯定的 web ()

まとめ ()

■否定的 web ()

まとめ ()

・ 過剰な平等主義の結果、「児童の貴重な特性」と見逃す恐れがある。
→ 有指導が難しく。

■班としての要約

まとめ ()

・ 家庭・保護者・担手・学校がそれぞれの共通理解及び連携が必要である。

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
・ 水平的な関係	・ 垂直的な関係	・ 全員参加の授業	・ 発問を促す授業
・ 待つ	・ 空白の時間	・ 教室全体での	・ 学習能力の向上
・ 学級崩壊	・ 知的な興奮	・ 刺激	・ 傾斜
・ 板書	・ 具体的	・ 意図	・

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

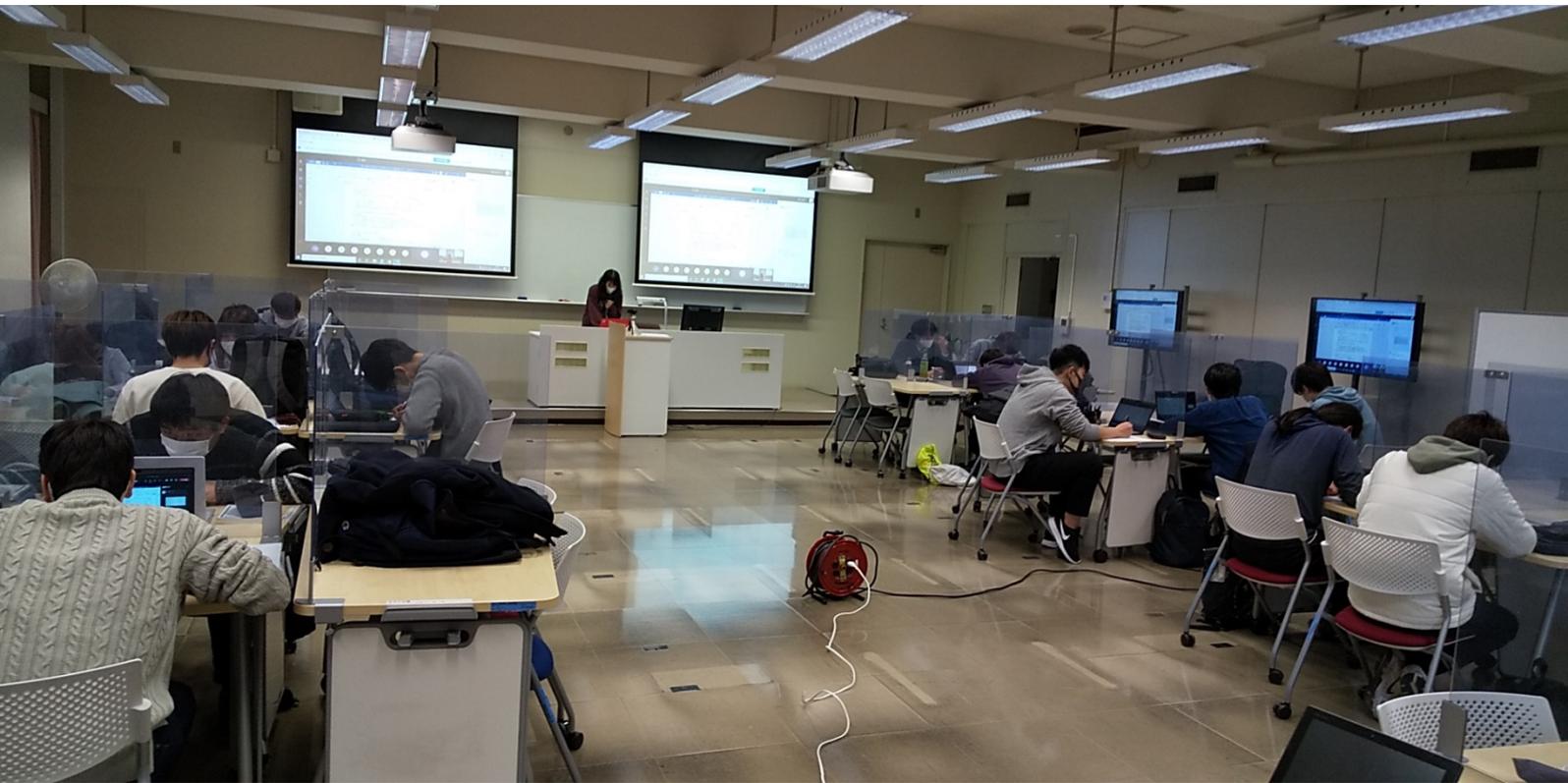
■ まとまりがなく、バラバラとした発表になった。
もう少しまとめて簡易的な文章にするべきだと思った。

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ 過剰な平等主義が進む中、個人にはない
各とどの様にサポートすればいいか
→ ボランティアのサポートなど。

■ 5 段階班の自己評価 (4)

学習環境としての時空間



各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (学習環境としての時空間)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (伝統的な教室とオープン・スクールの種類の考えがある。

- ・オープン・スペースには「ワークスペース型」「ラーニング・センター型」「特別教室型」がある。
- ・これまでの時間割の考え方は「アセンブリラインとしての時間」というものである。
- ・学年間の壁を越えた学び合いや授業時間を越えた授業などが導入されている。

■肯定的 web (学習指導要領解説)

まとめ (主体的・対話的で深い学びが重要視されている。

- ・言語活動や体験活動、ICT等の活用がしやすくなる。
- ・授業が改善されている。
- ・内容や時間配分を生徒の実態等から改善することが必要。
- ・主体的・対話的で深い学びは必ずしも単位時間10分が実現されるものではない。ことを考えながら授業を構成する必要がある。

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

- 生徒-教師間の学びだけでなく、子ども同士の学び合いも考慮は授業が大切だと感じた。
- 平等と個性の尊重のバランスが難しいと感じた。
- 教育実践記録を正しくつけることが授業の改善につながると思った。

■ 5段階班の自己評価 ()

■否定的 web (オープン・スペースに関する考察と展望)

まとめ (日本におけるオープン・スペースの大半は特別教室型である。

- ・特別教室型や教室が独立したワークスペース型はオープン・スペースに無関心であったり、学習間の時間的断絶が起きたりする。
- ・オープン・スペースとして、ラーニング・センター型よりは教室と連結したワークスペース型が望ましい。
- ・オープン・スペースをつくるだけにはオープン・スクールの授業を行うことはできない。

■班としての要約

まとめ (学習環境がすべての学習に入ることが影響) 与える。

- ・オープン・スペースをつくることで、生徒の自主的な学習を促すことができる。
- ・オープン・スペースを作るだけでなく、学校(教員)の意識の变革が必要である。
- ・異学年との交流がでているような授業が増えている。

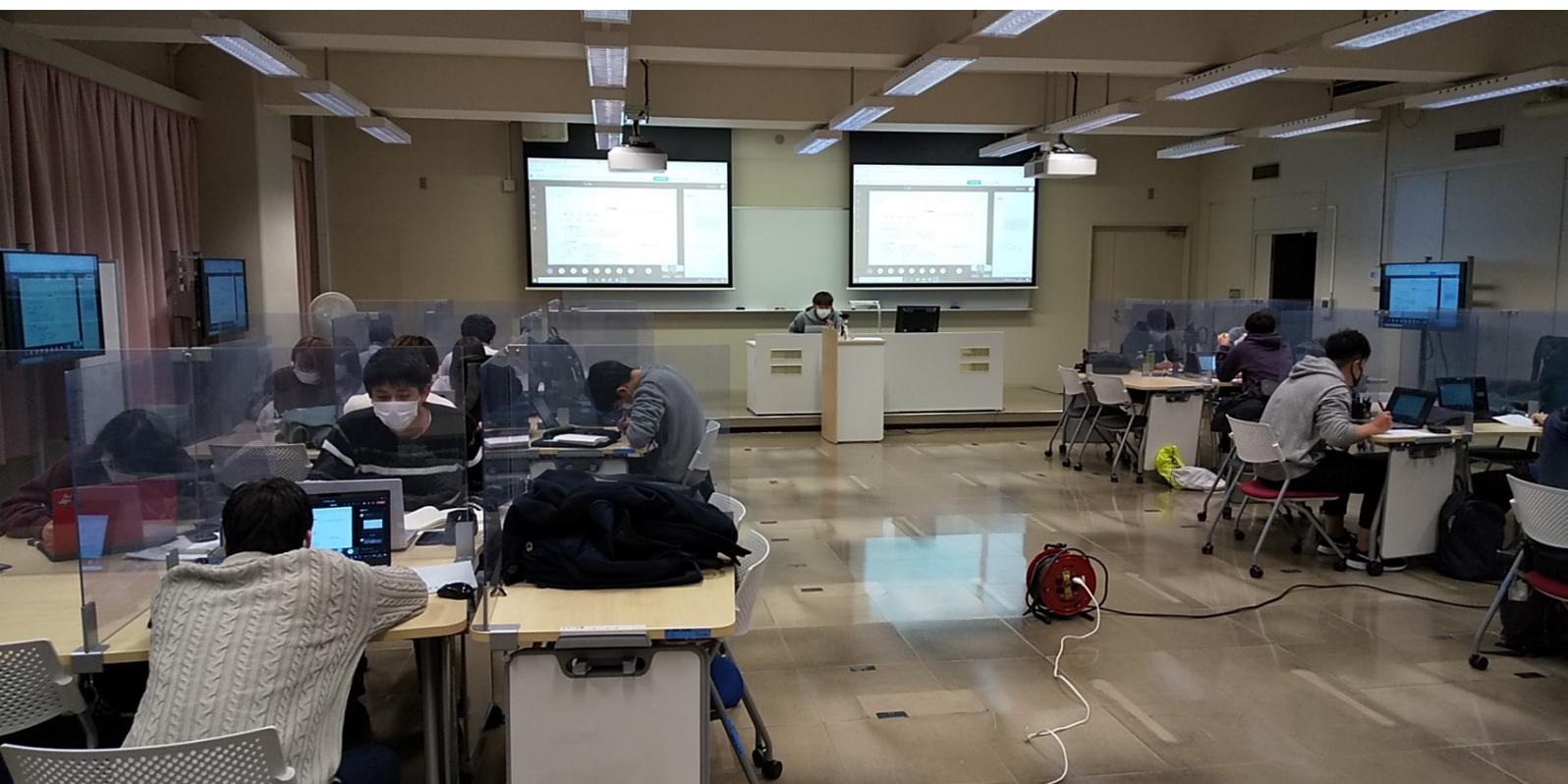
キーワード 10~20 語 明日中に 概念系統図

- ・伝統的な教室、オープン・スクール、オープン・スペース、ワークスペース型
- ・ラーニング・センター型、特別教室型、アセンブリラインとしての今こき生きている時間
- ・モジュール学習、教科センター方式、異学年型(時間別)クラス、70分授業

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

- 具体的な質問が重要だとあって、思考の誘導になるのだからいいかと思った。
- 記録から更なる課題を採っていくことが重要なのだと感じた。
- ICTを学習障がいの子のサポートとして活用するという考え方がとても良いと思った。

教育評価としての実践記録



各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (教育評価論としての「実践記録」)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (教育実践記録の研究創造の命綱)

- ・ 実践記録の表現形態は、主体的感情的な認識を形取化するに共通して、真実を語り、仲間の中で、実践記録から共通の価値が掘り起こされ、共通財産に育つことを目指す。

■肯定的 web ()

まとめ ()

- ・ 教科に対して実態を知ることができ、
- ・ 研究結果を知り、教育改善を行うことができた。
- ・ 試行錯誤がなかった。

■否定的 web ()

まとめ ()

- ・ 教科に固有の実践があり、実態を得ることができなかった。
- ・ 科学的な視点や法則はとれない。
- ・ 「実感的に読む」、「分析的に読む」ができていない。
- ・ 分析に価値ある事実の記録がない。

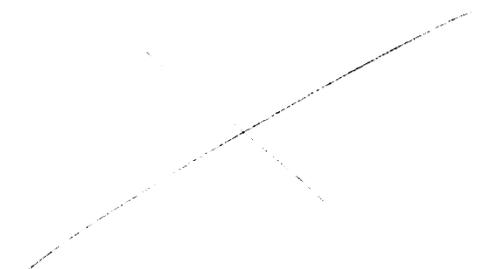
■班としての要約

まとめ ()

- ・ 読み手がわかるように、メモが詳しい。
- ・ しかし、作成が面倒で、分析に価値ある事実の記録を
- ・ 欠かさないようにする。

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
・ 教育実践	・ 分析的	・	・
・ 実践記録	・ 実態	・	・
・ 研究結果	・ 教育改善	・	・
・ 試行錯誤	・ 共通財産	・	・
・ 実感的	・ 事実の記録	・	・

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。



2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。



読み手がわかるように、実践記録はメモが詳しいと感じた。

35分しかかからず。

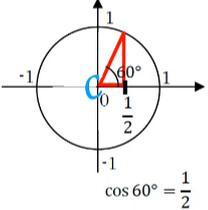
■ 5段階班の自己評価 ()

ICT活用例

チャンネルの新しい会議

01:25:52 制御を要求

グループ学習を行う
・タブレット端末を用いるとより簡単に情報交換ができる。
イメージ図など



$\cos 60^\circ = \frac{1}{2}$

備考
使用教科書 「・・・」(〇〇社)
準備物 ・・・・タブレット端末、電子黒板
授業形態と工夫 ・・・・

参加者

名前を入力

招待を共有

関

橋

山

松

水

+12 中 村 北

各班ワークシート (模擬授業まとめ)

改善したこと、すべきことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (ICT 活用論)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

学年: 高校一年

単元: 数I 図形と計量

内容: 定義の成り立ち説明

■目標、内容・指導の概略等

・ \sin, \cos, \tan の導入

・ 具体例を示す

・ グループ学習

タブレットなどを用いる

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■ イメージ図などを示した上でわかりやすく発表をするようにこころがけた。

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべよ。

■ 生徒の深い学びにつながるには、どのような工夫をするべきかを考える。

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

知識を得る手段として、電子黒板を用いることで、より概念を分かりやすく示すことができる。

グループ学習を行うことで生徒同士で学びを深めることができる。

■工夫した点、出典等

どのようにすると、生徒が分かりやすいか、情報交換ができるかについて工夫した。

■模擬授業を実践してみて感じたこと、わかったこと

模擬授業を実践してはいないが、イメージ図や具体例を示す中で、どのようなところを生徒は疑問をもつのか気がなった。

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ 子どもたちがどのような環境で、どのような形で学ぶのかによって理解度に違いが出てくるのだと思った。

ICT活用例



各班ワークシート (模擬授業まとめ)

改善したこと、すべきことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (ICT活用)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

学年・単元問わず学習障がいを持つ生徒向け

■目標、内容・指導の概略等

学習障がいを持つ生徒が周りの生徒と同じ環境である程度同じペースで学習できるようにするためのサポート。

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■ 科目の例を出せばかたがたに、次 ICT活用にあたりたりもう一度考えるといいと感じた。

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべよ。

■ 他の生徒との不必要な差を作らないようにすることに感じた。

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

板書をタブレット端末などを用いて撮影の許可など授業内での配慮。評価に関しては他の生徒と同様に。

■工夫した点、出典等

このを行うことにより障がいの有無に関わらず対話的な授業ができるようにした。

■模擬授業を実践してみて感じたこと、わかったこと

もう少し具体例やもっと良くなるサポート例を考える、気づけられれば良かったと感じた。

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ 今回の自分のテーマは障がいを持つ場合の生徒とたがいに苦手な生徒との判別が少し難しいと感じた。

確認問題07



各班ワークシート (確認問題まとめ)

1) (班内) まとめ
各問のポイント

■問1

カリキュラムの原理

- ・ 学習中心カリキュラム
- ・ 社会中心カリキュラム
- ・ 人間中心カリキュラム

■問2

アプロプリエーションとこの学問

- ・ 「○○とは、△△と...」と述べたが、それはそれについて
○○と考えるという内容 間接的表現で
一対一と対話しているが、引用で終わらせない。
- ・ 他者の考えを批判し、自分の判断や意見
の交流が行われる。
- ・ 時として、批判や反論の対象として
「自己の立案と対抗する立案」として
取り込まれることもある。

2) 問題全体を通して見て、全体のポイントと
思ったことをのべよ。

■ 教師、生徒が緊張感を持って
意見投合をするには、教材が重要
と感じた。

2*) 問題全体を通して見て、気づいたことをのべ
よ。

■ 自分たちが「自分」と意見を持って
一対一対話するにはどの対話工夫が必要か。
声が大いかに流れるためには、
どの対話工夫が必要なのか。

■問3

- ・ 「教師と子ども」
 - ・ 「子どもと子ども」
 - ・ 「教師と教材」
 - ・ 「子どもと教材」
- の間に「衝突」や「葛藤」が生じるような
「緊張関係」を持つ授業が多い。

■問4

「教材で教える」という主張

--- 教材とは、一定の教材内容を教えるための
材料である。

「教えるための材料」、「学ぶための材料」である。

「教科内容論の見過ごし」

--- 系統学習が「無味乾燥な知識の詰め込み」
にならない。これは「知識伝達」型ではなく「知識
創造」型の学びが必要といわれている。

2**) 確認問題に取り組んでみて、確認問題に取り
組む時間や、問題内容と発表班との関係などにつ
いて、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ 自分たちの意見を出し合うと持った
その根拠が重要。

3) (班内) まとめ